

## 旧 ChemStation と OpenLAB CDS 2 との比較

項目	旧 ChemStation	OpenLAB CDS 2
ユーザーインターフェース	メニューやボタンがたくさんあり、何の機能があるのか分かりづらい。	リボンメニューとポップアップメニューで操作一新。分かりやすく、操作の手数が少ない画面。
起動と解析の動作速度	遅い。	マルチ画面を新採用し、不要な画面展開を削減。ボトルネックになっていた旧式マクロを排除。再解析速度は世界一。
解析操作	手数が多し。	ワンクリックでのデータ呼び出しや解析画面のレイアウトの自由設定を導入し、見やすく、手数が少ない解析操作を実現。ピークエクスプローラでクロマトグラムの差異を一瞬で表示。
ピークの積分	思い通りに積分することが難しい。	マニュアル積分により操作の手数が大幅削減。どんなに小さなピークでも思いのままに積分可能。
レポート編集	Bバージョンのレポートは、ユーザーは編集不可。	ユーザーが容易に自由に編集できる、インテリジェントレポート機能を標準搭載。
データインテグリティ対応	データが消せる、ログが分かりづらい、データインテグリティ対応に難あり。	Workstation Plus では、標準でデータベースを搭載。データ消去・改ざんの課題を解決。監査証跡の簡単なデータレビュー操作を実現。
他社装置コントロール	不可。	島津、Waters など他社製クロマトグラフのコントロールが可能。

# OpenLAB CDS 2 による データインテグリティ対策



[www.agilent.co.jp/chem/openlab](http://www.agilent.co.jp/chem/openlab)

カスタムコンタクトセンタ

0120-477-111

email\_japan@agilent.com

本資料掲載の製品は、すべて研究用です。本資料に記載の情報、説明、製品仕様等は予告なしに変更されることがあります。アジレントは、本文所に誤りが発見された場合、また、本文書の使用により付随的または間接的に生じる損害について一切免責とさせていただきます。

アジレント・テクノロジー株式会社  
© Agilent Technologies, Inc. 2017  
Published in Japan, November 30, 2017  
5991-8731JAJP

## 地球上で最も確実なデータインテグリティ対策

### セキュリティの高いログイン管理

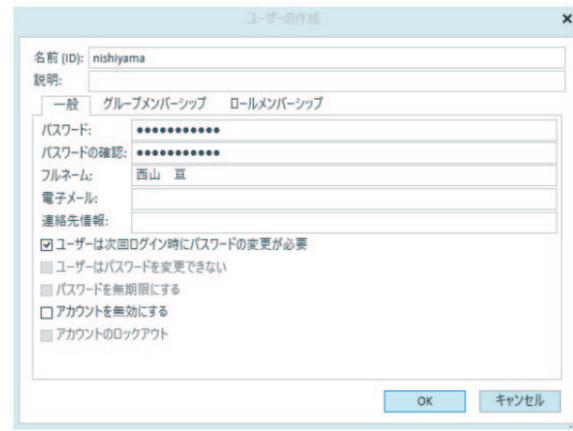
ログオン時に、必ず個別のユーザー ID とパスワードの認証することで、操作を行った個人をすべて特定できます。また、パスワードは暗号化され、入力時はアスタリスクで表示されるため、誰からもパスワードを読み取られることはありません。



### 柔軟かつ強固なユーザー管理

管理者は、ユーザーの設定画面でユーザーに次回ログイン時にパスワードを強制的に変更させるよう設定することが可能です。また、ユーザーが退職や異動などでソフトウェアにアクセスすることがなくなった場合には、そのユーザーのアカウントを無効にすることもできます。

OpenLAB CDS 2 の場合、登録できるユーザーの数に制限はありません。また、データインテグリティ対応のために他部署のユーザーを追加する際も、追加のライセンス費用は発生せず、迅速にユーザーの追加に対応できます。



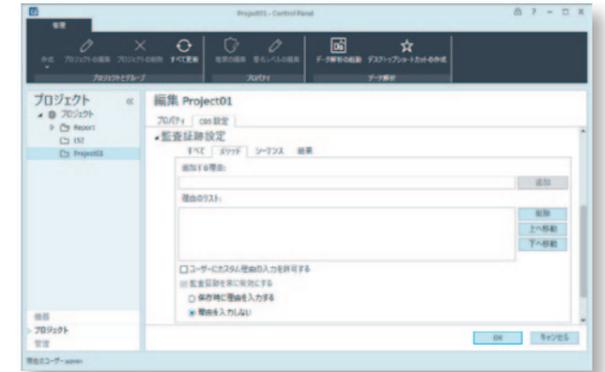
### 詳細なロール設定

各ユーザーに割り当てる権限(ロール)は、各項目ごとに詳細に設定することができます。例えば、メソッドの編集や解析メソッドへのアクセス、結果をロックさせる権限や監査証跡のレビューを行う権限などをユーザーごとやグループごとに付与することが可能です。標準でロールの組み合わせが設定されているため、使用開始時のロールの検討が楽に行え、ロール設定の負担を軽減させることができます。



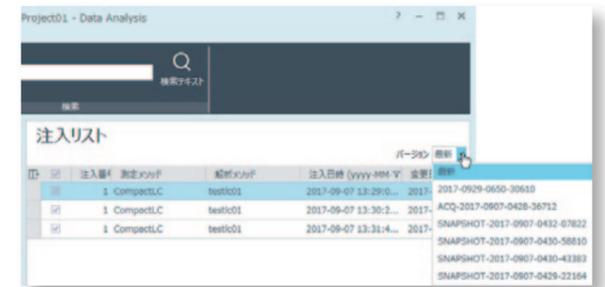
### 柔軟なプロジェクト設定

プロジェクトごとに監査証跡を残すか残さないかを設定することができ、品目や仕事内容に応じてプロジェクトを分け、監査証跡やロールの設定を柔軟に設定することができます。また、監査証跡を一度有効にすると、無効にすることはできません。プロジェクトを新規作成する際、既存のプロジェクトから複製し、設定を継承させることができるので、監査証跡の設定を忘れる恐れがありません。また、プロジェクトごとにユーザーの権限を自由に設定することが可能です。



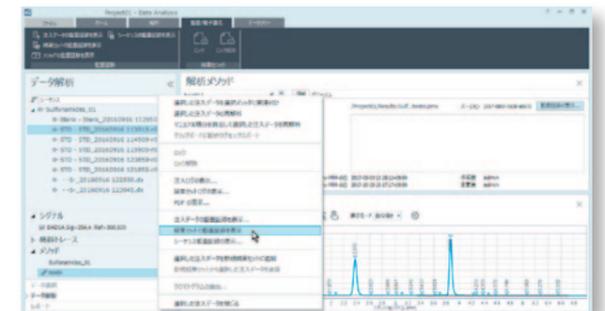
### データを消去・上書きしないバージョン管理

それぞれの結果セットごとに生データとメタデータ(測定条件や積分イベントなど)が保存されており、結果データの再現が可能になっています。また、過去の結果をバージョンごとに読み込むこともできます。再解析終了時に任意のタイミングで結果の保存を行うことができます。



### 右クリックで監査証跡を簡単に表示

サンプルの承認時に必要となる監査証跡のレビューの手間を軽減させるため、データやメソッド上で右クリックするだけで、監査証跡にアクセスできるようになっています。データファイル、マニュアル積分、結果セット、シーケンステーブルの監査証跡などのすべてが右クリックだけでアクセスできます。



### 簡単な監査証跡レビューを行った記録を残す機能

監査証跡のレビューを実施した記録を残すことができます。レビュー実施済みの監査証跡は灰色で、レビュー未実施の監査証跡は赤色で表示されるため、一目でレビュー未実施の監査証跡の存在がわかります。監査証跡のレビューは、内容を確認した後でレビューボタンをクリックするだけで完了します。監査証跡のレビューのために監査証跡を印字する必要はありません。

